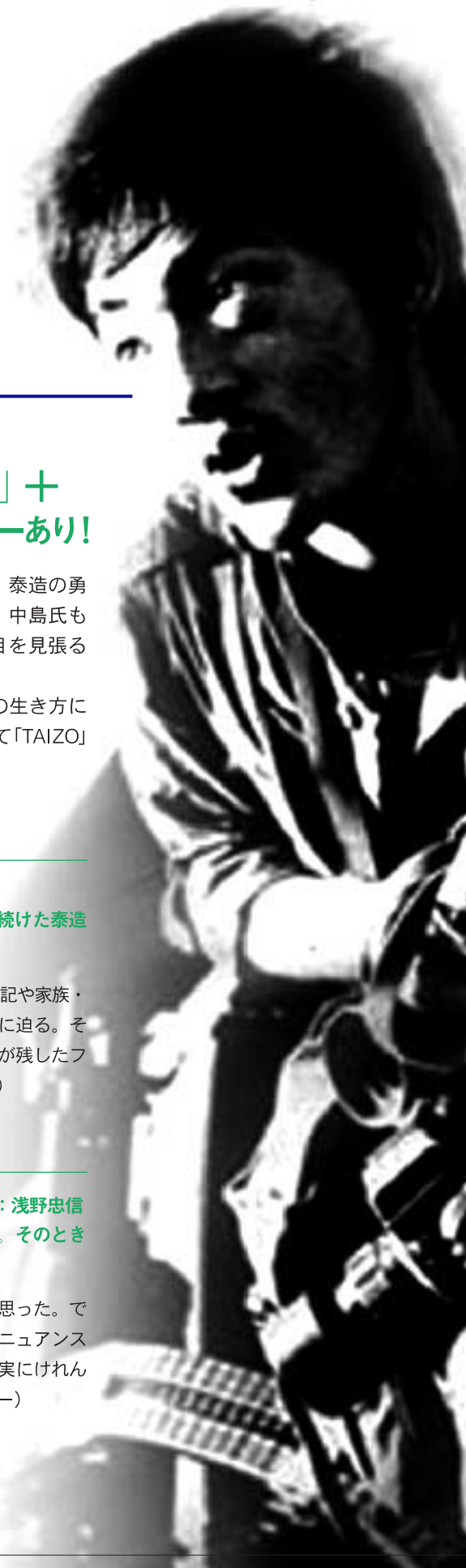




一ノ瀬泰造 特集上映会



「TAIZO」先行上映決定!! 特別同時上映「地雷を踏んだらサヨウナラ」＋ 中島多圭子氏(「TAIZO」監督)のトークショーあり!

今回の4月交流会は、先行上映を含む贅沢な二本立て。さらに、泰造の勇氣と人間に対する愛情を描ききった、監督・中島多圭子氏が来場! 中島氏も泰造の如く行動力があり、かつ大変気さくな方です。(おまけに目を見張る美人!) 上映会のトークショーにも乞うご期待!

ベトナム戦争時代に思い入れのある方も、夢に命を賭ける泰造の生き方に憧れる若者も、息子に愛情を注ぐお母様方も、監督を質問攻めにして「TAIZO」を通じて一緒に盛り上がりましょう!

先行上映「TAIZO」

2003年/チームオクヤマ/監督:中島多圭子/製作:奥山和由
ストーリー:〜かつてこんな若者がいた〜 揺るぎない信念で夢を求め続けた泰造の生き方に迫るドキュメンタリー作品。

オススメです! 一ノ瀬泰造を取り上げたドキュメンタリー映画。泰造の日記や家族・友人へ宛てた手紙や、泰造の当時を知る人々へのインタビューで彼の姿に迫る。それだけでなく、母・信子さんの息子への想いもカメラは映し出す。泰造が残したフィルムを自ら現像し、写真集を刊行した信子さんの姿に思わず涙。(富)

特別同時上映「地雷を踏んだらサヨウナラ」

1999年/監督:五十嵐匠、製作:奥山和由 原作:一ノ瀬泰造 主演:浅野忠信
ストーリー:執拗な信念でアンコールワットを目にすることを叶えた泰造。そのとき彼の背後にはクメール・ルージュの兵士が……。

オススメです! 何このタイトル? シャレになんないじゃん、最初はそう思った。でも観終わるとわかります。その言葉に秘められた人となりを実に表すニュアンスが。一ノ瀬泰造を演じるのは浅野忠信、名優です。現地の人々の交流を実にけれんみなく演じているのが印象的。情景にマッチした音楽も秀逸。(ふっちゃん)

2004年4月11日(日)
13:00~(開場12:30~)

ベルブホール
(多摩永山公民館5F)

京王相模原線京王永山駅または
小田急線小田急永山駅より徒歩2分

PROGRAM

13:00-14:51 「地雷を踏んだらサヨウナラ」
15:05-16:45 「TAIZO」
16:45-17:15 トークショー「TAIZO」監督・中島多圭子氏

TICKET

一般:前売り1,300円 当日1,500円 学生:前売り1,000円 当日1,200円
永山公民館、くまざわ書店(聖蹟桜ヶ丘店、永山店)、TAMA CINEMA FORUM
ホームページにてチケット発売中!

ZOOOOOOM!! 一ノ瀬泰造

昨年12月に発売されて話題になっている、村上龍の「13歳のハローワーク」(幻冬舎)には戦場ジャーナリストは極限状態でも生きていける特別な人がなれるものだというようなことが書いてあるが、はたして泰造とはどのような青年だったのであろうか。

迷うことなく前進し続ける信念があったということには間違いはない。だからこそ「戦場」という場所においても生きていくことができたのだろう。その姿勢は、若くて一途な分、荒削りな一面も垣間みえたという。後に紹介する映画「TAIZO」のインタビューア、元朝日新聞プノンペン特派員・井川一久氏も(当時の泰造の仕事の仕方について)あまり褒められたものではないよねという旨のコメントをしている。しかし私は、死を覚悟し「絶対アンコールワットを撮ってやる」という頑固な信念があっただけではと思う。彼は日常の中に喜びを見いだすことに人一倍長けていた。実際、泰造が撮ったカンボジアの子供たちの写真を見ているとよくわかる。だからこそ、戦場に身をおくことができたのではないだろうか。

戦場カメラマンという職業に対してプロフェッショナルな振る舞いをしたか云々よりも、私は彼の純粋さや優しさに注目したい。(富)

一ノ瀬 泰造

1947年11月1日、佐賀・武雄市生まれ。
幼い頃より元陸軍写真作業員の父に写真を教わる。日大芸術学部写真学科を卒業。UPI通信東京支社勤務を経て、72年印バ戦争を取材。カンボジア、ベトナムに入り戦争取材を続行。73年11月反政府軍クメール・ルージュの聖域であったアンコールワット一番乗りを目指し、単身潜入後、消息を絶つ。その後、ポル・ポト派に処刑されていたことが判明。82年2月プラダル村で遺体が発掘され両親に確認された。わずか26年間の生涯であった。

ほかにもある! 戦場カメラマンを取り上げた作品

興味がある方はぜひ!

◆澤田教一 ~ビュリツアー賞を受賞した日本人
「輝ける瞬間」
1999年名古屋テレビ、共同テレビ/配給:
東宝/カラー102分
脚本:稲葉一広、演出:若松節朗、出演:大沢たかお、財前直美、西田敏行
<http://nagoyatv.com/oldweb/glorious/index.shtml>

◆ロバート・キャバ
「キャバ イン・ラブ・アンド・ウォー」
2002年/アメリカ/90分/ドキュメンタリー/配給:ギャガ・コミュニケーションズ
監督・脚本:アン・マークピース、撮影:ナンシー・シュライバー、編集:スーザン・ファンシエル
<http://www.gaga.ne.jp/capainlove/>

◆ジェームズ・ナクトウェイ
「戦場のフォトグラファー ジェームズ・ナクトウェイの世界」
2001年/スイス/96分/ドキュメンタリー/配給:メディア・スーツ
監督・製作・編集:クリスチャン・フレイ/
写真・マイクロカム撮影:ジェームズ・ナクトウェイ
<http://www.mediasuits.co.jp/senjo/>